

室内ペタンク競技規則

志太地区体育指導委員連絡協議会

平成14年12月25日制定

令和6年11月10日改定

【概 要】

硬球を使用するペタンク競技規則を基にビニール製のボールを使用し、室内で競技できるよう、また志太地区に合った競技規則に改正したものです。

競技は、目標物（ビュット）にビニール製のボールを投げあい、より近づけることによって得点を競うゲームです。試合球は「ニチレクボール、室内用」を使用します。

1. 対戦方法

- ・トリプルス（3人対3人）方式で行います。持ちボールは各自2個とします。（各市町の大会については、その大会毎に決定します。）
- ・チーム編成は、交替競技者を含め5名以内とする。
- ・メーヌの途中では交替できません。
- ・

2. コート

- ・幅3m以上、長さ12m以上としますが、会場の条件に合わせて設定します。

3. 得点

- ・試合は、20分13点先取したチームの勝利となります。但し、20分を経過した場合はその時点における高得点チームを勝者とする。なお、その時点（第1投を投げ終えて、ボールが止まっている事）のメーヌは有効とする。
- ・得点は両チームの持ちボール全てを投げ終わったとき数える。
- ・相手チームのどのボールよりもビュットに近い自分のチームのボールがあるときその近いボールの数だけ得点になります。

4. 投球位置と投球方法

- ・競技者は全員コートに集合し、あいさつのあと、ジャンケンで勝ったチームは先攻後攻を決めます。もう一方のチームはボールの色を決めます。先攻となったチームがビュットを投げる権利を得ます。
- ・ビュットを投げる権利を得たチームの1人がスタート地点を定め投球サークルをセットします。
- ・ビュットを投げたプレーヤーが必ずしも最初にボールを投げなくても良い。
- ・ボールはゴロで投げても、高く投げてもかまいません。ただし、投球は必ず下手投げとする。
- ・ボールを投げる時は、両足がサークルの中に入っていなければならない。サークルを踏んだまま投げたり、投げたボールが着地する前に、足が地面から離れたり、サークルの外へ踏み出したりした場合は無効とする事もある。
- ・車椅子や下肢に障害のある者は例外とし、双方の同意による投球方法とする。

5. ビュット

- ・ビュットは、サークルより概ね6～10mあること。
 - ・投げたビュットは障害物や禁止区域（壁等）から1m以上離れ、また、サークルに立ってビュットが見えなければならない。
- 投げたビュットが有効でないときは、3回まで投げ直すことができます。もし、3回投げても有効とならないときは、相手チームにビュットを投げる権利が移り、この場

合は、サークルの位置を変えることもできます。ただし、ボールを最初に投げる権利は最初にビュットを投げたチームにあります。相手チームが3回投げても有効とならないときは、ビュット権は元に戻りますが、サークルの位置の変更はできません。いずれの場合も、ボールを投げる権利は、最初にビュットを投げる権利を持ったチームのものとなります。

- ・投げたビュットが観客やプレイヤー、審判、その他動くものに当たって止められたときは、無効とし、投げ直さなければならない。この場合は投げる回数には含まれません。
- ・ティールしたボールによってビュットが弾かれ審判や観客に当たって止まったときは、その止まった位置が有効となります。
- ・ビュットが有効でないと判断して投げ直すときは、相手チームの承認を得ることが必要です。相手チームが認めないときは審判が判定します。
- ・メニューの途中で、ビュットが禁止区域に移動したとき、あるいは一度禁止区域に入り再び有効区域に戻ってきたときは無効となります。
- ・メニューの途中でビュットが無効となったとき、両チームとも持ちボールが残っていないか、両チームとも残っている場合はこのメニューは無効となります。もし、一方のチームだけに持ちボールが残っているときは、残っているボールの数が得点となります。
- ・ビュットが他の競技中のコートに入ったときは、サークルとビュットの間に禁止区域がないなどビュットの無効に該当しない限り有効となります。

6. 投球

- ・ゲームを始める前にトスやジャンケンで決まったチームが先攻となります。次のメニューからは、前のメニューで勝ったチームが最初にボールを投げる権利を有します。
- ・ボールを落とす地点などに線をつけたり、目印になるような物を置くことはできません。
- ・投げるときに、バランスをとるためにもう一方の手にボールを持つことは認めますが最後の持ちボールを投げるときは禁止します。
- ・最初に投げたボールが禁止区域に入った場合は、相手チームにボールを投げる権利が移ります。有効地域にボールが残らない限り、交互にボールを投げます。最終的に有効地域にボールが一個も残っていないときは、このメニューは無効となります。

7. ボール

- ・禁止区域に入ったボールは、すべて無効となります。有効地域と無効地域との境界線上にあるボールは有効とする。
- ・一度禁止区域に入ったボールが床面の傾斜や障害物に当たって戻ってきた場合は無効となります。
- ・無効のボールによって動かされた他のボール及びビュットは、その停止位置を有効とし、無効となったボールは直ちに除外すること。
- ・投げたボールが観客または審判に当たって止まったときは、その停止位置を有効とする。
- ・投げたボールが味方のプレイヤーによって止められたときは無効とする。
- ・ポアンテ（ビュットに近づくように投げる）したボールが相手チームのプレイヤーにより止められた場合は、その停止位置でよいのか、投げ直すかを選ぶことができる。
- ・ティールしたボールまたは当てられたボールが、プレイヤーによって止められた場合、このプレイヤーの相手チームは、（A）その停止位置のままにしておく、（B）当てられたボールまたはビュットがあった地点から、動かされて止まった位置を結んだ延長線上の任意の地点に置く、のいずれかを選ぶことができる。
- ・動いているボールを故意に止めた場合は、そのプレイヤーだけでなくチームが即時失格となる。

- ・ メーヌが終了する前に、ボールを動かしたり、拾ってはならない。

8. ボールがビュットから同じ距離にある場合

- ・ 両チームともにまだボールを持っている場合は同距離にしたチームがさらにもう一球を投げる。それでも同距離のままである場合は次に相手チームが投げ、以後どちらかのチームのボールが近くなるまで交互に投げていく。
- ・ 一方のチームにしかボールが残っていない場合は、このチームの残りボールを全て投げた後、最終的にビュットに近いチームのボールが得点となる。同距離のまま終了した場合はこのメーヌは引き分けとなります。

9. 投球順番

- ・ 先攻がサークルよりボールをなげます。
- ・ 後攻がサークルよりボールをなげます。
- ・ 常にビュットに遠いボールのチームが投球しなければならない。
- ・ 一方のチームが持ちボールすべて投げ終わってしまったら相手チームも残りのボールすべてを投げます。
- ・ チームの投球順番は自由です。

10. マナー

- ・ プレイヤーがボールを投げるときは、他のプレイヤーは静粛にしていなければならない。相手チームのプレイヤーは、歩き回ったり、大声で話したりせず投球方向に対してビュットから後方に2 m以上離れた地点、また、投球するプレイヤーの後方2 m以上離れたところに待機していなければなりません。
- ・ 試合中は、コート内で投球練習をする事を禁止します。

11. その他

- ・ 試合の進行及び判定は審判がその権利を掌握します。
- ・ 各メーヌ終了時の得点の確認は、全員で行ってもよいが、審判に対する発言権は代表者（キャプテン）にのみ与えるものとします。
- ・ 上記記載以外の事柄においてはペタンク競技規則に準じて、判断します。

平成 26 年 4 月 9 日一部改正
令和 5 年 4 月 13 日一部改正
令和 5 年 11 月 5 日一部改正
令和 6 年 11 月 10 日一部改正